

## 「市長と区民との意見交換」の概要

テーマ 『秋葉区の特徴を活かしたまちづくり』

- ・日時 平成 19 年 6 月 7 日(木)  
午後 2 時 30 分～3 時 30 分
- ・会場 新津地区市民会館第 1 会議室
- ・意見発表者数 5 名(公募)
- ・傍聴者数 21 名

### 【意見発表】「災害時の区の役割と、交流人口拡大・雇用対策について」

この地区は「良好な住宅地」としての役割を担うことになっているということなので、災害時においてもその役割を果たすため、コミュニティFMを有効活用したほうが良いのではないかと。また、五泉市や阿賀野市、田上町と接しているため、このエリアを含めた放送を大切にしたいと思う。

田園都市として売り出そうとしているならば、県立植物園やフラワーランド、石油の里などについて、国内だけでなく海外を含めたPRを進めて、交流人口を増やしてもらいたい。区バスを循環型の運行にすれば、施設の利用も増えると思う。

秋葉区は、住宅地として優良だと思うが、市や区として雇用を生み出す産業政策が見えない。バイオリサーチパーク構想を活用して、働く場を作ることはいかぬか？ 例として、バイオ産業に関連するコールセンターなどが有効であると思う。

旧新潟市の人たちから、子どものときに遠足で秋葉山に来ていたので、「秋葉区」という区名にはなじみがあるという話を聞いた。

### (市長)

秋葉区が良好な住宅地を目指していく中で、安全面のことは重要であると思っている。FMを活用することについては、特色ある区づくり事業で全自治会にラジオを2台配布し、緊急時には自動的に放送されることになっている。また、隣接地域との連携・提携は重要であると考えている。阿賀野市とは緊急防災情報を含めた放送委託契約を締結したし、五泉市とは防災のほか、花の産地としても連携できると思う。秋葉区の自主防災組織については、他の地域よりも若干組織率が低いだが、消防団が充実している地域はその傾向があるようだ。防災訓練も秋葉区で最初に行われることもあり、これから組織率を高めていきたい。

秋葉区には、交流人口を増やせる要素がそろっていると思う。秋葉山には旧

新潟市民も親しみを持っており、子どもの環境教育ができる身近な拠点として、大いに活用したい。

バイオリサーチパークについては、新津の皆さんから熱心に取り組んでもらったが、サイエンスパークが各地で花盛りとなっている中で、当初の方向性にもう少し付加価値を加えたい。例えば、これから健康づくり運動を全市的に取り組むが、その面でバイオリサーチパークとのリンクを考えていく。バイオ分野でのコールセンターの役割は、新潟バイオリサーチパーク株式会社に担ってもらう。

【意見発表】「バイオエタノール活用等による農業振興について」

全農にいがたが米のバイオプラントを作り、燃料として生産・販売することに取り組んでいる。具体的には、2009年1月に東港でプラントを開設し、系列のスタンドでの販売を目指している。

市の技術者と新潟薬科大学が共同研究などを行い、安全性や収益性について検証してもらいたい。また全農など関係機関と連携して、バイオエタノールの生産を進めて欲しい。これにより農業経営に展望が開き、若い世代が米作りに戻ってくると思われる。

(市長)

新潟では、20年近く前から亀田郷土地改良区がバイオマスに取り組んできた。当時はサトウキビを使った燃料化ということだったが、今では結果的にブラジルがその方法で成功している。その頃から、佐野藤三郎さんは超多収米の生産を呼びかけていたが、それが現実には近づいている。

新潟は食糧生産基地であり、エネルギー基地であった。この二つを合わせると、バイオ燃料になる。また、菜の花から菜種油とバイオディーゼル燃料を作ることにも芽が出てきている。

バイオエタノールの生産によって、発展途上国の食糧価格が急騰するということも危惧されている。日本は食糧を世界中から輸入しているが、それだけ水を奪っているということにもなる。新潟のように水が豊かなところで超多収米やバイオエタノールをやるということは、魅力あるシナリオといえる。三菱ガス化学も、新しい燃料の方式を新潟から開発して全国に広めようとしている。

エネルギー開発を21世紀にどうするのかというときに、田園型政令都市の新潟から先鞭をつけていく、あるいは実証していくことは、非常に重要であるので、大いに勉強し、全国のトップランナーとして実践していきたい。

【意見発表】「里山や新潟薬科大学を活用した個性あるまちづくりについて」

県立植物園やその背後にある新津丘陵は、約800種の植物や八幡山遺跡、石油の里など、国内はもちろん、世界に誇れる丘陵地と言っていると思う。近年は、里山を歩く人も増えている。里山文化の再生に取り組んでもらいたい。

これからは「癒しの時代」と言われているようだが、全国有数の産地であるこの地域の花産業を、それに生かしてもらいたい。先日行われた花の国際見本市は、外国人も含めて参加者から高い評価をいただいた。この地域の花文化の伝統を守りながら、創造性を高めていく必要がある。

中心商店街の活性化のため、約1600人いる新潟薬科大学の学生や教員などから市街地で生活してもらったり、大学のセミナーハウスを作ってもらったりしてはどうか。また卒業生が地元で新しい企業を興すことになれば、若者が生き生きするまちとしてイメージアップする。そのための、ソフト・ハードの充実を進めてもらいたい。花や食についても、薬科大学のバイオ技術を活用してほしい。

高齢化社会においては、交通手段の確保が課題だが、富山では魅力的なLRT（軽量軌道交通）が誕生したこともあり、鉄道の復活を考えても良いのではないか。

（市長）

花の国際見本市やシンポジウムは、地域にこれだけの花農家・花産業があるから、初年度にもかかわらず成功したと思う。外国の方からも「市街地から少し移動しただけで素晴らしいロケーションがあるのは、新潟の財産である」というお話をいただいた。市民でもまだこの地域を知らない人が多いと思われるので、切り口を変えながら、あるいは見本市などを定着させて、多くの皆さんから花産地の魅力を知っていただくことが必要である。

花文化というお話があったが、市民生活の中で、花がライフスタイルとして位置づけられることにより、田園型政令指定都市が本物になっていくと思う。花文化の市民生活への定着と、全国・全世界への発信の両方をやっていくことが大切ではないか。そのマッチングを考えることが、行政の取り組みとして必要である。極東ロシアでは、チューリップが定着し、これから果物なども売りたいようなので、商売として流れていくまでの関係を作っていきたい。

学生が住んでみたいと思わせるまちづくりが必要である。また、新潟の中でも拠点駅である新津駅をにぎやかにすることを、市としても考えていく。バス路線の工夫などで、秋葉区の人が駅までスムーズに移動し、そこから必要に応じて新潟に行ってもらうように、新しいオムニバスタウン事業などを活用した

い。そうすれば学生なども動きやすくなり、魅力的なまちができると思うので、地元からも積極的に取り組んでいただきたい。

バイオは健康づくりの接着剤となり得るが、行政が莫大な支援をしてもなかなか成功しない。民間企業が実利を得て、市民が健康を得るような形でのバイオリサーチパークを目指して行ってはどうか。

【意見発表】「文化・歴史ゾーンの設定について」

菩提寺山や秋葉山、護摩堂山にかけてのエリアを文化・歴史ゾーンとすることで、秋葉区のまちづくりのベースとなるのではないかと。歴史や文化が里山にこれだけ集積しているのは、8区の中でも珍しいと思われる。

文化・歴史ゾーンを整備することで交流人口が増え、また環境・教育面へも波及していく。これにより、若い世代が秋葉区で暮らし、子どもを育てたいと思ってくれるのではないかと。

八幡山遺跡の整備に5億円が投資されると聞いたが、単純にハードを整備するだけでなく、さまざまな関係部署が事業にかかわって、リピーターが増えるような複合的ソフト事業を行ってほしい。

(市長)

私が新・新潟市の魅力をすべて把握しているわけではないので、地域の皆さんから魅力発見について動いていただきたい。

市としても、地域間競争を勝ち抜くため、文化によるまちづくりを進めている。世界の中で、新潟が頂点にあるといえるものは何なのかを設定し、皆さんが見つけた魅力・宝物とともに多様なアピールを行いたい。

【意見発表】「地域の特色を生かしたインフラ・住環境整備について」

都市づくりは、インフラと都市環境を整備し、住民が住んでよかったと実感できるものでなければならない。

秋葉区は、新潟のベッドタウンとして人口が増加し、多くの市民が中心部へ通っている。国道403号の渋滞解消のため、4車線化と磐越道インターチェンジの設置が必要と思われる。国道460号は、近隣区との連携道であり、事業の促進が必要である。

地球温暖化防止の観点から、公共交通利用を促進するため、新津駅西口に鉄道利用者のための無料駐車場を設置し、アクセス道路の整備も行ってほしい。

新津駅西部地区には、幼稚園と小学校がある。地区を縦断する幹線市道の南

北端には郊外型商業地区があり、大型車両の規制がないため、国道並みの交通量となっている。これに伴う騒音と振動や、道路と並行して流れる河川の悪臭などで、住環境が悪化している。同地区の現状とパークアンドライドによる将来の交通量増加に対応するため、市道を整備して交通の分散化を図るとともに、当該河川を二階建て河川とするなど、住民福祉の向上を進めてほしい。

(市長)

私は、地域にある「まちなか」を大切にしたいと考えてきた。国も、大型店の規制など、その方向に向かってきている。モータリゼーションへの対応という名目で行政の誘導が行われてきたが、住んでいる人が不幸になっては何にもならない。商業集積に引きずられるまちづくりをやめて、住んでいる人が望むまちとなるような行政の手法が求められる。

具体的な意見をいただいているので、参考としたい。